第156回　「中鉢特別ゼミ2014」（東京）

【日時】 12月6日（土）13：30−17：00（開場：13：00）
【会場】 機械振興会館 6階 6D−1会議室

講師　講演テーマ
【講師】　　中鉢　良治氏 （独）産業技術総合研究所　理事長　元ソニー社長
【講演テーマ】　　「胆力を鍛える！」

課題図書
『それから』夏目漱石著（新潮文庫）
『イノベーション・オブ・ライフ』クレイトン・クリステンセン著（翔泳社）
『経済学は人びとを幸福にできるか』宇沢弘文著（東洋経済新報社）

中鉢先生の講演・要旨

私はエンジニアであり、ソニーにいるときは磁性材料の技術屋（材料屋）として、圧力・温度・時間を制御して、機能（性質・形状）を変化させる研究に携わりました。そして今、産総研ではエネルギーや生命科学等に携わっています。

まず、最初に皆さんへの質問です。
あなたは何故、エンジニアの道を選んだのですか？
今、あなたはアマチュア時代、あるいは学生時代にイメージした仕事が出来ていますか？
そして、プロの技術者・エンジニアになった今、あなたは適性があると思いますか？

→【中鉢先生のコメント】１

課題図書の１冊である「それから」の著者・夏目漱石は当初、建築家を目指して一高から東大に進学しました。しかし、金沢出身の米山氏から「何百年、千年を超えて作品が残る文学をやるべきだ」と強く進められ、文系に転向しました。

皆さんへの２つめの質問です。
夏目漱石の「それから」を読んで、あなたは主人公である大助のことをどう思いましたか？
そして、あなたは大学を出る時の不安は何でしたか？

→【中鉢先生のコメント】２

課題図書の2冊目は、クリステンセンの『イノベーション・オブ・ライフ』です。クリステンセンは、大学でMBAを取得した学生が必ずしも幸せな人生を送っていない事に気づき、彼は病気になった時に口述筆記でこの本を書き上げました。さて、皆さんは、クリステンセンの『イノベーション・オブ・ライフ』を読んでどう感じましたか？

→【中鉢先生のコメント】３

さて、皆さんは将来の事を考えて不安になることはありませんか？病気を通じて、そして今までの経験から６７歳で達した今の私の結論は４

つです。
　１．今は続かない。過去と未来は環境が違うので、今は続かない。
　２．絶対に思った通りにはならないが、準備が整えば扉は必ず開く。
　３．苦しいことはいつまでも続く。
　４．何一つ無駄なことはない。やらなければ良かったと思うことは何一つない。今やっていることは必ず、将来、活かされる。

　皆さんが道に迷った時は、是非、人や社会に対して喜びを与えるか否かで判断して欲しいと思います。例えば、上司と対立してカッとなってしまうようなことがあったら、寝てしまいましょう。そのうち何とかなります。

　最後に皆さんに是非、言いたい事があります。
　退職してからでは本は読めません。見識を持ち、自分で考えるために、今から本を読んで下さい。そして、何事に対しても覚悟を持って取り組み、自分自身が納得する道を選んでください。あなたが通らなかった道はあなたの歩いた道ではありません。あなたが行動したこと、通った道こそがあなた自身です。

中鉢先生の講演の終りに、阿部先生が講演の内容を３つにまとめられました。
　１．今を楽しんで、未来を考える
　２．出来ること、やりたいこと、そして社会のためにやらなければならないことの３つが重なることに取り組む
　３．理想を掲げ、step by stepで頑張る

参加者の感想
◆「自分は何を持って自分であるのか？」という問いは、自分の生きる意味や仕事をする理由を問われているようで、いつも以上に考える事が多いフォーラムでした。
　先生が仰った言葉や議論から、自分が歩いてきた「道」でしかそれを悟ることが出来ないこと、そして、「決断」とは、自分の中で「断つ」事を「決める」ことであって、それに対する「覚悟」が未来への指標になりうると考えました。

◆今回は「自分は何を持って自分であるのか？」、自分の生きる意味や、仕事をする理由（Why）を問い続けられているようで、いつも以上に考える事の多いフォーラムでした。それはとりもなおさず、先生のこれまでの人生を飾りのない言葉で吐露しながら、フォーラムを進めて下さったことに他なりません。
　では、自分は何を持って自分であるのか。
フォーラムの中で先生の仰った事や議論から結局、自分というのは期待や思い込みではなく、歩いてきた「道」でしかそれを語る（悟る）ことは出来ない。加えて、「決断」とは、文字通り、自分の中で「断つ」事を「決める」のであってそれに対する「覚悟」が未来への指標になりうると考えました。
これは、«未来編集考学» No.1624（野中郁次郎さん）でも紹介されたハイデガーの「存在は時間性を持つものである」、「未来を置くことで、過去が意味づけされ、今が決まる」という話にも繋がるのではないかと考えます。この辺りを、もう少し咀嚼して、自分の行動を進めて行きたいと思います。
　また、最後の質疑応答でも、色々と叱咤激励を頂きました。
日本人には日本人の良さがあり、他の国の人々にもそれぞれの良さがあります。真のグローバル化とは、一つの色に塗り上げるのではなく、ちぎり絵のように、各々の良さを引き出して一つの素晴らしい絵にすることだと思います。その為に、日本人であることに誇りを持ちつつも、他の国の人々を尊敬し何故、日本でモノを作ることが大切であるかを考えていくことが日本でモノづくりを続ける価値に繋がると思いました。
　ひるまず、前に出ていきます。

◆「胆力を鍛える！」？、課題図書が３冊？？？それはどういうこと？と思って、身構えて参加しましたが、まずは素直に中鉢特別ゼミに参加して良かったと思います。　時間がほとんど無い中、必死になって３冊の課題図書を読んで、肩に力を入れて参加したら、いきなり体操で　身構えずにと仰って・・・実際には真剣に議論・対峙するためにちゃんと準備をしなさいということだったと思います。
　一つのメッセージは「覚悟」。これを持って事に当たりなさいということと思います。
社会的価値を創造し、社会から尊敬されることをすべきであって、単に経済的価値に重きを置くことはなく。
　仰ったこと、以下の４点。　①今は続かない、続くというのは錯覚でしかない　②絶対に思った通りにはいかない、行くはずがない　イライラせずに準備する。準備しないと扉は開かない　③いつまでも苦しいことは続く、楽にはならない　→　平然と生きることが大切　④経験で何一つ無駄なことはなかった。必ずその経験は活きる！そのうち何とかなる！　どれをとっても大事なことだと思います。
　また、最後に仰ったこと、「何か考えていてもそれを発現・発言しないのは何もしないのと一緒！」「とにかく一歩前に出る、一歩前に出ることが大切」
　これは、実践しなければなりませんね。いい子ぶってはいけません。何か考えていても、なにも表現しないのはダメですね。結局考えているだけでは何もできていないのと一緒ですから。心がけていますが、どうしてもすべての場面でそれが出来ているわけではないので、できるようにしたいです。あわせて、「ダメと思ったら寝る！」。これも大切です。
　ゼミを受講して久しぶりに「脳を徹底的に刺激されたような疲れ」が残りましたが、それは非常に心地いい感覚でした。それは、我々のために時間をかけて準備をしてくださった中鉢先生のお蔭だと思います。正直なところ、参加されなかった方には「もったいなかったですよ」とお伝えしたいです。それほど、良い内容でした。　以上

Copyright (C) 2020テクノ未来塾